

映画監督

山崎 貴さん

故郷・松本

凱旋!

●問い合わせ 秘書広報室 (☎34-3271 ☎35-2030)

— も く じ —

映画監督 山崎貴さん 故郷・松本に凱旋	2
特定外来生物の駆除	6
「新しいこと」を利用する手口に注意、 市議会第1回臨時会から	7
2024OMF	8
情報チャンネル	10
6月の相談日	18
松本マラソン2024 エントリー開始	20

松本市出身の映画監督 やまざきたかし 山崎貴さんが、4月9日に松本市民栄誉賞を受賞しました。

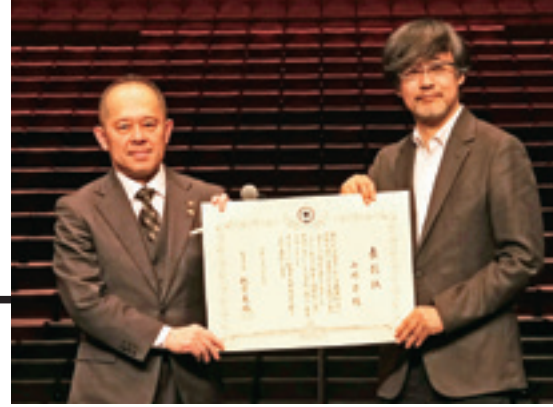
山崎監督はVFX(※)の第一人者で、手がけた映画『ゴジラ-1.0』は「第96回アカデミー賞[®]視覚効果部門」を受賞。日本映画史上初の快挙を成し遂げ、市民に明るい希望を与えてくれました。

高校時代まで松本で過ごし、その経験が映画制作の大きな力になっているという山崎監督。市民栄誉賞授与式と、市長が行ったインタビューを紹介いたします。

ピエフエックス
※VFX:CGによる高度なビジュアルを駆使した映像表現

松本市民栄誉賞受賞

小平奈緒さんに続き2人目の受賞。4月9日にまつもと市民芸術館で行われた授与式（県知事特別表彰と同時開催）には、話題のシューズを履いて登場。地元での受賞に対する喜びを語りました。



足もとはあのシューズ!

山崎監督受賞時のコメント

何よりも親の笑顔が嬉しい

「よく、『故郷に錦を飾る』とありますが、特大の二つの錦（県知事特別表彰と松本市民栄誉賞）を飾らせてもらいました。こうして地元で賞をいただいて、何より嬉しいのは、親の笑顔が見られたことです。

信州で過ごした少年時代と、上京後の都会での暮らしの両方の経験が、映画を作る上で大きな力になっています。このまちに生まれて良かったです」

に



昨年の7月～10月に松本市美術館で開催された特別展「映画監督 山崎貴の世界」のオープニング式典の様子。デビュー作から最新作までを紹介した展覧会の来場者は、5万人を超えました。





YouTubeで
インタビュー動画
公開中!



臥雲市長 × 山崎監督 特別インタビュー



山崎貴監督 プロフィール

1964年、松本市生まれ。
清水小学校、清水中学校を
卒業後、松本県ヶ丘高校に
進む。高校卒業後は、阿佐ヶ
谷美術専門学校で学ぶ。
CGによる高度なビジュアル
を駆使した映像表現・VFXの
第一人者。令和5年度松本市
文化芸術大賞受賞

授与式後に行われた、YouTube松本市公式チャンネル用の特別インタビュー。リラックスした雰囲気の中、市長が「松本の子どもたちに一言」とお願いすると、監督は「そういうの苦手なんですよ」と笑いながら答えてくれました。

高校生の時には、ここまでくる予感がありました

臥雲松本市長 (以下、臥雲) 監督は県ヶ丘高校出身ですね。高校生の時には、映画の世界でどこまでいけると思っていましたか？

山崎貴監督 (以下、山崎) 今ぐらいの感じは、予感としてありましたね。高校生って、どこかで根拠の無い自信を持ってるじゃないですか。「VFXの監督として名を馳せる」というのをイメージしていました。

臥雲 『ゴジラ-1.0』は、監督・脚本・VFXの肩書がありますね。どれが一番やりたいことなんでしょうか？

山崎 僕の中では一つの仕事です。映画を作る中では切り離せない。お米を作る人に「田植えと稲刈りどっちが好き？」と聞いても、一連の仕事ですという答えになるのと同じですね。

VFXは僕の七つ道具の一つです。わざわざ劇場に来てくれたお客さんが、スクリーンを見た時に「うわあー！」ってなる映画が好きで、そういうものを作りたい。脚本の段階からVFXのことを考えながらやっています。



特別展「映画監督 山崎貴の世界」まちなか出張展から、千歳橋に設置した展覧会応援キャラクター「Y-cat」スタチュー。美術館だけでなく、市街地にも山崎ワールドが広がりました。



松本と東京、両方知っていることは大きい

臥雲 松本で高校時代まで育ったことが、山崎さんにどのように投影されていますか？

山崎 都会育ちで都会しか知らない人は、見るものが狭いような感じがするんです。松本はある程度都会な部分と、自然豊かな部分、どちらも。そんな松本で育って、東京に出て行って巨大な高層ビル群を見た時は、SFの世界に行ったみたいなきもちだったんです。想像を絶するビルの大きさにびっくりした。このギャップを知っているというのは大事だと思っています。

思い描いたことは、実現する可能性がある

臥雲 松本の中学生・高校生にメッセージをお願いします。

山崎 そうなの、苦手なんですよ（笑）。立派なことは言えないんですけど、「思い描いたことは実現する可能性がある」ということかな。実現する保証は無いけれど、思い描かなければ絶対に実現しない。好きなことを見つけて、そこに向かっていける時代にどんどんなっていると思うんです。つまらないなあと思いながら仕事するよりも、好きなことを仕事にできるようになってきている。色々なことがサポートを受けられるようになっていっているので、好きなことを追求していける時代になっていくと期待しています。

臥雲 そういう社会にしたいですね。



中学校の美術部時代には既に完成していたという山崎監督のサイン。特別展「映画監督 山崎貴の世界」まちなか出張展の展示会場入口に書かれたもの

